

## レポートの構成

### 1. レポートの構成（心理学の実験・研究レポートの一般的な構成）

- 問題...研究の目的, 先行研究, 仮説
- 方法...実際に行ったやり方
- 結果...調査で得られた事実（データの提示）
- 考察...得られた結果についてどう考えるか
- 文献...本文で引用した文献のリスト
- 資料...使用した質問紙や raw data などを添付

### 2. 各部分の書き方

#### 問題

- ・なぜこの研究を行うのか
- ・自分自身の研究の位置づけ 先行研究の概観
- ・研究の目的
- ・仮説の提示（仮説検証型の場合）

#### 方法

- ・調査対象（人数, 性別, 平均年齢など）
- ・調査項目（項目数, 回答形式など。既存の尺度を用いた場合は作成者, 発表年も書く）
- ・調査手続き（調査時期, 調査方法, 回収率, 有効回答率など）

なお、実験レポートではそれぞれ、被験者、実験材料・装置、手続きといった呼び方をする。

#### 結果

- ・どのような統計処理を行ったのか
- ・統計処理によって見出された結果
  - \* 記載順序を工夫する
    - ・最も主要な研究目的や仮説に関連する中心的結果の記述から始め, 周辺の・付加的結果はその後に書く。
    - ・関連するデータはひとまとめにして示す。
  - \* 自分にとって都合が悪いからといって, 仮説に反する結果を隠してはならない。
  - \* 表やグラフを上手に利用する

#### <統計的検定の結果を書くときの注意点>

- 例 1)  $\chi^2(3)=33.82 (p<.01)$  となり, 娘世代が母世代よりも多いのは大学・大学院卒で, それ以外の学歴は, 母世代が娘世代よりも多かった。
- 例 2) 「外向性点」の生活リズムの違いでの平均値の比較をしたところ, 朝型の平均値は 15.56 ( $SD=4.25$ ), 夜型の平均値は 11.91 ( $SD=5.07$ ) であった。t 検定の結果, 朝型と夜型の生活リズムの違いで外向性点が異なるとは言えなかった ( $t(18)=1.72, n.s.$ )

一般的に必要とされる情報は, 統計の種類 自由度 計算された統計値 有意水準

#### <表やグラフを書くときの注意点>

- ・表には, それぞれ通し番号 (表 1, 表 2, ...) と表題をつける。表題は表の上を書く。
- ・グラフには, それぞれ通し番号 (図 1, 図 2, ...) と図題をつける。図題は図の下を書く。
- ・本文を読まなくても表やグラフの中身を理解できるような内容, 表題 (図題) にする。ただし, 表やグラフだけを示すのではなく, それから読み取れる重要な点は文章で説明する。
- ・グラフは, 独立変数を横軸, 従属変数を縦軸に。それぞれの軸が表わすものを明記する。
- ・同じデータに基づく表とグラフの重複は避ける。

#### 考察

- ・結果が仮説を支持したかどうか (仮説検証型の場合)
- ・結果が先行研究と一致したかどうか
- ・得られた結果をどのように解釈するか
- ・方法論上の問題点
- ・今後の展望

#### 文献

- ・既存の尺度が発表された論文名
  - ・問題や考察を書くために引用した著書や論文名 など
- 文献の書き方は後期の授業で説明